

## 和服着装に関する研究 (第6報)

——現代感覚の浴衣着装と意識——

豊田幸子・山本寿子

### Studies on the Wearing of Japanese Style Clothes (VI)

— The Modern Sense of Wearing *Yukata* and Consumer Attitudes —

Sachiko TOYODA and Hisako YAMAMOTO

#### 緒 言

和服は日本の気候風土のもとで、先人による長い生活の慣習の中から築き上げられ、今日まで伝承されてきた日本の民族衣裳である。しかし生活の洋風化や合理化等による私達のライフスタイルの中で、和服の着装も日常着から儀式や趣味的な着用へと変化している。このような流れの中で、伝統衣裳として、現代生活に適した和服の着装形態について考察し、教育に生かしていきたいと考える。

前報<sup>1～5)</sup>までは女子大生の和服着装の機会と種類について、また和服レンタルの利用状況とその意識について調査報告した。第1報の“浴衣と帯の利用”についての調査が平成4年(1992年)であり、その時期からの若年層の浴衣ブームは今や定着して、この衣料不況の中でも“ゆかたサンダル”、“シースルーゆかた”と開発商品はヒットを続けている<sup>6)</sup>。男女を問わず毛髪のカラーリングや眉のカット等がめずらしくなくなった現代の若年層のファッションの中で、現代感覚の浴衣着装とその意識についてアンケート調査し検討したので報告する。

#### 方 法

アンケートの調査対象は表1に示すように、名古屋女子大学家政学部家政学科2・3年生及び短期大学部生活学科1・2年生の学生384名である。

アンケートの調査内容は最近の浴衣の着装状況での浴衣、帯、履物、バック類の種類と着装の方法について、さらに現代感覚の簡便な浴衣の着装の工夫やコーディネートに対する意識について行った。

アンケートの調査時期は1998年7月中旬である。またアンケートは質問紙法による集合調査で行った。

#### 結果及び考察

##### 1. 浴衣の着装状況

アンケート対象者384名に、現在までの一番最近に浴衣を着装した時期の回答結果を表1に示す。平成4年以前までが82名あり、調査時期が平成10年は7月中旬であったので、この年は13名と少なく、平成9年が167名と最も多く、次いで平成8年47名、7年33名、6年23

表1 調査対象者及び浴衣の着装時期

所属 着装時期	短期大学部						家政学部		合計	
	1年生				2年生		2年生	3年生		
	服飾文化コース	服飾デザインコース	食生活コース	国際文化コース	服飾文化コース	生活造形コース	生活環境学専攻	生活経営学専攻	小計	大計
平成4年(1992年)以前の計	9	20	21	7	0	6	15	4	82	82
平成5年(1993年)	1	4	3	2	0	1	6	2	19	302
平成6年(1994年)	3	4	7	1	0	2	6	0	23	
平成7年(1995年)	2	9	12	4	0	1	2	3	33	
平成8年(1996年)	5	11	8	4	3	2	11	3	47	
平成9年(1997年)	17	28	39	13	34	11	14	11	167	
平成10年(1998年)7月中旬まで	2	0	4	1	3	1	0	2	13	
合計	39	76	94	32	40	24	54	25	384	384

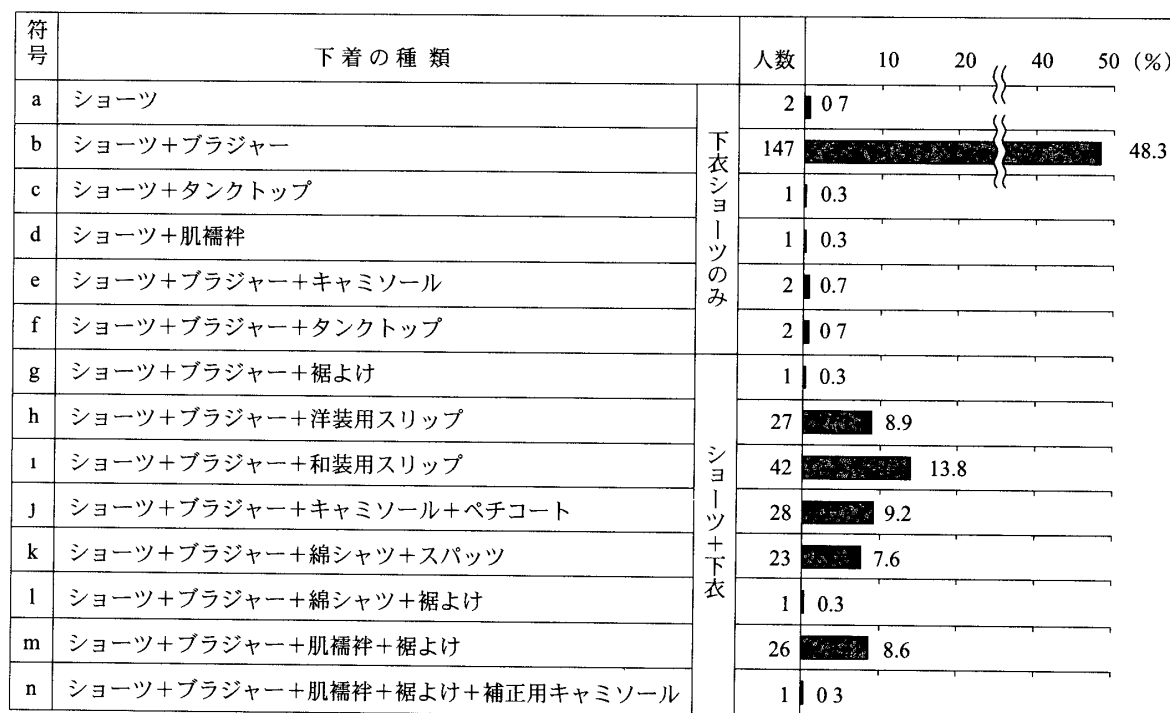
名、5年19名と順に少なくなっていた。したがって、最近の浴衣の着装状況をみるためには平成5年以後の着装者302名の回答を対象とした。

#### (1) 下着の種類

平成5年から10年までの浴衣着装者302名における下着の種類を図1に示す。“ショーツ”のみから“ショーツ+ブラジャー+肌襦袢+裾よけ+補正用キャミソール”をつける人まで14種類がみられた。最も多かった“ショーツ+ブラジャー”の48.3%を含めて、下衣がショーツのみであり、その上衣にはキャミソールやタンクトップそして肌襦袢をつけるという符号a～fの6種類で51%と多かった。浴衣は風呂上がりに普段着として家で着るものではこのような簡単な“ショーツ+ブラジャー”の下着で本来はよいのかもしれない。しかし最近では、若年層の夏のイベントファッションとして外出着となっている。その場合女性としては特に下半身は透けたりしないようにとか歩く場合のさばきがよいのためにも裾よけがあった方が着ごちがよいと考えるし、授業でもそのように指導している。しかし最近の若年層は洋装の場合でも、下着をあまりつけない傾向にあることが、この場合も影響を受けていると考える。2番目に多かったのは、一応和装形式の“ショーツ+ブラジャー+和装用スリッパ”が42名の13.8%、次いで“ショーツ+ブラジャー+キャミソール+ペチコート”が28名の9.2%、“ショーツ+ブラジャー+洋装用スリッパ”が27名の8.9%とみられた。第6番目にはいかにも現代風な“ショーツ+ブラジャー+綿シャツ+スパッツ”が23名の7.6%みられる等でショーツの上に下衣をはく人は符号g～nの8種類で49%であった。また和装用スリッパや肌襦袢、裾よけ等を使用している和装形式は全体の約24%しかみられなかった。

#### (2) 浴衣と帯の種類と素材

浴衣着装者302名の浴衣の素材と所持枚数を調査した結果を表2に示す。素材では綿100%から綿に麻や化繊の混紡など綿が全体の97.5%と多く、化繊は2.5%と少ないが、今年特に新聞にも記事になった“シースルーゆかた”のような透ける素材も2名みられた。この調査時期が平成10年7月中旬であったので、10年度の浴衣の購入や着用はまだあまり始まっておらず、化繊の浴衣着用は少なかったとも考えられる。所持枚数では1枚が最も多く74.6%、2枚が18%、3枚が4.6%、4枚が1.9%の順にみられ、5枚、7枚、10枚の所持者も1名ずつみられた。



N = 302 のうち複数回答 2

図1 浴衣の下着の種類

表2 浴衣の素材と所持枚数

素材	綿 100%							綿と麻の混紡		綿と化繊の混紡			化繊		化繊の透ける素材		合計
	1枚	2枚	3枚	4枚	5枚	7枚	10枚	1枚	2枚	1枚	2枚	3枚	1枚	2枚	1枚	2枚	
人数	193	50	14	6	1	1	1	33	5	8	1	1	5	1	1	1	322
%	59.9	15.5	4.3	1.9	0.3	0.3	0.3	10.3	1.6	2.5	0.3	0.3	1.6	0.3	0.3	0.3	100.0

N=302 のうち無記入 7名, 複数回答 27

この5枚以上の浴衣所持者3名は、祖母や母親がプロの和裁士であったり、着付の免許を持っていて和服に家族中で関心があり、本人も着物コンテストに入賞したりしている学生達であった。

浴衣着装者302名の帯の種類と素材についての結果を表3に示す。帯の種類では自分で結ぶ半幅帯が64%と最も多く、次いで胴に巻く前帯と既に結びつけてあり後でさし込むだけの後帯とから出来ている付け帯が約29%であった。最近では成人女子用の帯としても色や柄が豊富になった流行の三尺帯も23名の約7%みられた。三尺帯は男子や子供用の帯としての兵児帯というイメージが強かったが、並幅の布をそのまましごいて胴に二まわり回して後で結ぶ成人女子用として、最近では絹のちりめん、化繊のワッシャー等のしわづけした布等で洋服調感覚の渋い配色の商品が出回っている。従来の子供用三尺帯であるピンクやブルー系で豆絞りの柄のイメージとは全く変化してきている。

帯の素材ではやはり化繊が32.3%と最も多かった。次いで絹25.4%、綿22.9%、ウール8.5%の順で、麻も1名の0.3%みられた。素材での不明が33名の10.3%みられたが、アンケートの方法が用紙を配付してすぐ回収したので、和服は常日頃ひんぱんに着用するものではない

表3 帯の種類と素材

種類	ウール		絹		絹と綿の混紡		綿		麻		化繊		不明		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
半幅帯	21	6.6	55	17.3	1	0.3	46	14.4	0	0	63	19.8	17	5.2	203	63.6
三尺帯	0	0	3	0.9	0	0	8	2.5	0	0	8	2.5	4	1.3	23	7.2
付け帯	6	1.9	23	7.2	0	0	19	6.0	1	0.3	32	10.0	12	3.8	93	29.2
合計	27	8.5	81	25.4	1	0.3	73	22.9	1	0.3	103	32.3	33	10.3	319	100.0

N=302のうち無記入2名、複数回答19

表4 履物の種類

種類	下駄	草履	下駄サンダル	サンダル	ビーチサンダル	上履き	バレースューズ	合計
人数	254	23	11	10	2	2	1	303
%	83.8	7.6	3.6	3.3	0.7	0.7	0.3	100.0

N=302のうち屋内で着装のため履物なしの学生1名を除く、複数回答2

めに帯の素材をすぐに回答するのが難しい人もあったと考える。

### (3) 履物とバック類の種類

浴衣着装者302名の履物の種類についての回答結果を表4に示す。下駄が254名の約84%と最も多かった。次いで草履が23名の7.6%あった。この場合の草履は夏の浴衣に合わせて普通では男子用の雪駄というたたみ表の台のものを素足にはくのであるが、女子用で草履という場合は、皮やビニール張りのものも多く、夏用にはパナマ等の草の繊維で作られたものもあるが、足袋をつけてはくものである。この23名は雪駄風なものかあるいはゴム草履なども含めて回答しているものと考え。次いで流行の下駄サンダルが11名の7.6%あった。下駄サンダルは木製ではなく合成樹脂で下駄のような厚みのある現代風なデザインに鼻緒をつけたりしたサンダルの感覚ではけるものであり、夏の靴売場などでもたくさん見かけるようになってきている。次いでサンダル3.3%、ビーチサンダル0.7%、上履き0.7%、バレースューズ0.3%の順であった。上履きとあったのは職場や学校で靴とはきかえてはくサンダル風のものと考え。

バック類の種類についての回答結果を表5に示す。巾着袋が231名の約82%と最も多く、次いで和装用バックが23名の8.1%、カゴ類が19名の6.7%と和風調のものが上位を占めていた。流行の布製で口にファスナーがついたトートバック1.4%、ハンドバック1.1%、ガマガチ型ミニバック0.4%、中・高校生が通学カバン以外にもう一つ持つ第二カバンも0.4%とわずかずみられた。また浴衣は普段着として近所に出かけることも多いためバック類は何も持たなかったとの回答も22名あった。

### (4) 着付について

浴衣着装者302名の着付した人とその所要時間のクロス集計結果を表6に示す。“家族に着付してもらった”が214名の70%と最も多く、所要時間も“10～20分未満”が約40%と一番多い結果であった。次いで“自分で着付した”が48名の15.7%、“知人に着付してもらった”が42名の13.7%の順であり、所要時間も“10～20分未満”から“20～30分未満”の順に多かった。次いで“学校の先生に着付してもらった”や“買ったお店に着付してもらった”も1

表5 バック類の種類

種類	巾着袋	和装用バック	カゴ類	トートバック	ハンドバック	ガマグチ型ミニバック	第二カバン	合計
人数	231	23	19	4	3	1	1	282
%	81.9	8.1	6.7	1.4	1.1	0.4	0.4	100.0

N=302のうち何も持たなかった学生22名を除く、複数回答2

表6 浴衣の着付者と所要時間

着付者	10分未満		10～20分未満		20～30分未満		30～40分未満		40～50分未満		50～60分未満		1時間以上		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自分で着付した	5	1.6	20	6.5	15	4.9	5	1.6	2	0.7	0	0	1	0.3	48	15.7
家族に着付してもらった	24	7.9	122	39.9	55	18.0	10	3.3	1	0.3	0	0	2	0.7	214	70.0
知人に着付してもらった	6	2.0	21	6.9	13	4.2	1	0.3	1	0.3	0	0	0	0	42	13.7
学校の先生に着付してもらった	1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3
買ったお店で着付してもらった	1	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.3
合計	37	12.1	163	53.3	83	27.1	16	5.2	4	1.3	0	0	3	1.0	306	100.0

N=302のうち無記入1名、複数回答5

名ずつみられたが、所要時間はさすがに両方とも“10分未満”であった。

またこの着付で体型補正をしたか、しないかについての質問結果を表7に示す。“体型補正をする”が153名の約51%の半数以上と意外に多かった。下着の所で述べたように補正用キャミソールの使用もあったがその他に若

表7 体型補正の有無

種類	体型補正をする	体型補正しない	合計
人数	153	149	302
%	50.7	49.3	100.0

N=302

い人はウエストが細いのでさらしやタオルを胴に巻いたりということが考えられるし、ブラジャーをつけたり、パットをプラスすることも体型補正の一つと考える人も含まれるのではないと思われる。

浴衣の着付では長着の方と帯結びのどちらが難しいかの質問結果を表8に示す。“帯結び”が難しいとの回答が205名の約69%，“浴衣（長着）の着付”が94名の約31%であり、帯結びが難しい人が多くみられた。

さらに浴衣の着付の過程で難しい、あるいは時間のかかるところはどこかを回答させた結果を表9に示す。ここでもやはり“帯の結び方”が146名の47.7%と最も多く、次いで“おはしよりの整え方”が105名の34.4%，“衿元の合わせ方”が27名の8.8%，“浴衣の腰紐の結び方”が25名の8.2%の順にみられた。またその他として“裾の長さ”という着丈の決め方や“身頃下前端の合わせ方”，“帯をきつめに締めること”等の項目が1名ずつあった。やはり和服の着装では帯結びが美しさのポイントでもあり、神経を使う難点でもあるようである。

表8 浴衣の着付ではどちらが難しいか

種類	浴衣(長着)の着付	帯結び	合計
人数	94	205	299
%	31.4	68.6	100.0

N=302のうち無記入3名

表9 浴衣の着付の難点

種類	浴衣の腰紐の結び方	おはしよりの整え方	衿元の合わせ方	帯の結び方	帯をきつめに締めること	裾の長さ	身頃下前端的合わせ方	合計
人数	25	105	27	146	1	1	1	306
%	8.2	34.4	8.8	47.7	0.3	0.3	0.3	100.0

N=302のうち無記入7名、複数回答11

表10 帯の結び方

帯結び	文庫結び	蝶結び	貝の口結び	その他のアレンジ結び	不明	合計
人数	61	219	8	4	18	310
%	19.7	70.6	2.6	1.2	5.9	100.0

N=302のうち複数回答8

表11 浴衣着付の工夫

種類	浴衣にかさねの衿を付けた	帯揚げを付けた	帯に飾り紐を付けた	帯締めをした	帯を斜めに折り返し2色使いにした	膝丈で短く浴衣を着た	帯の蝶の部分を斜めにした	母が洋服地で浴衣を作った	特に工夫していない	合計
人数	12	8	7	23	98	2	1	1	162	314
%	3.8	2.6	2.2	7.3	31.2	0.6	0.3	0.3	51.7	100.0

N=302のうち複数回答12

その帯結びの結び方の種類についての回答結果を表10に示す。若年層らしく“蝶結び”が219名の70.6%と最も多く、次いで“文庫結び”が61名の19.7%，“貝の口結び”が8名の2.6%，“その他のアレンジ結び”もいろいろな名称で4名の1.2%あった。帯結びの名称がわからなかったり、忘れたりの不明の人も18名と多かった。

また今回の浴衣の着付で工夫した点がありますかという質問の結果を表11に示す。“帯を斜めに折り返し2色使いにした”ものが98名の31.2%と最も多く，“帯締めをした”が23名の7.3%，“浴衣にかさねの衿を付けた”が12名の3.8%，“帯揚げを付けた”が8名の2.6%，“帯に飾り紐を付けた”が7名の2.2%、最近流行の“膝丈で短く浴衣を着た”が2名の0.6%みられた。また“帯の蝶の部分を斜めにした”や“母が洋服地で浴衣を作った”なども1名ずつみられた。また“特に工夫していない”という伝統的なオーソドックスな着方も162名の51.7%と半数近くあった。

表 12 浴衣の着付時間を減少させるには何が必要だと思いますか

種類	個人の着付の技術	簡便な着付ができる小物の利用	浴衣の構成の工夫	帯の構成の工夫	コツを覚える	合計
人数	234	80	35	56	1	406
%	57.6	19.7	8.6	13.8	0.3	100.0

N=384のうち無記入6名、複数回答28

表 13 和服の構成の加工に対する意識

種類	自分の浴衣や帯を加工することに抵抗はない	自分の浴衣や帯は加工したくないが新しく購入するのなら抵抗はない	加工料が安価であれば抵抗はない	浴衣や半幅帯では抵抗はないが格の高い和服では抵抗がある	自分の浴衣や帯に限らず和服を切って加工することに抵抗がある	どのようなものかよくわからない	合計
人数	75	102	31	45	121	14	388
%	19.3	26.3	8.0	11.6	31.2	3.6	100.0

N=384のうち無記入3名、複数回答7

## 2. 浴衣着装に対する意識

アンケート対象者 384 名に現代感覚の簡便な浴衣の着装の工夫やコーディネートに対する意識について質問を行った。

### (1) 着装の簡便に対して

前述した表 6 の浴衣の着付者とその所要時間では回答者 302 名のうち、自分や家族に着付してもらっても 1 時間以上かかった人が 3 名、40～50 分未満が 4 名、30～40 分未満も 16 名とわずかずつであるが浴衣などの一枚の着物を着付けるのにかなり時間がかかる人もみられた。そこで“浴衣の着付時間を減少させるには何が必要だと思いますか”の質問に対する回答結果を表 12 に示す。複数回答 28 を含めて、“個人の着付の技術”が 234 名の 57.6 % と半数以上にみられた。次いで“簡便な着付ができる小物の利用”が 80 名の 19.7 %、“帯の構成の工夫”が 56 名の 13.8 %、“浴衣の構成の工夫”が 35 名の 8.6 %、“コツを覚える”が 1 名の 0.3 %であった。浴衣での“簡便な着付ができる小物の利用”とはやはり難点である帯結びの簡略化であろう。半幅帯を前帯と後帯の 2 つに切るだけでも、後帯を自分の好みの形に結んでおき、付け紐を自分の胴に結ぶだけであれば、非常に着付時間も短縮できると思われる。“浴衣の構成の工夫”でも、前述した表 9 の着付の難点での 2 位が“おはしよりの整え方”であったことから、おはしより分を既に腰揚げとして縫っておくとか、二部式きもので仕立てるか、おはしよりなしの対丈きものにすれば非常に手軽な着付が出来ると思われる。

さらに“着付を簡便にするために、浴衣や帯を切って二部式きもの、対丈きもの、付け帯等に加工することに対して、どう思いますか”の質問に対する回答結果を表 13 に示す。“自分の浴衣や帯に限らず和服を切って加工することに抵抗がある”が 121 名の 31.2 % が最も多く、次いで“自分の浴衣や帯は加工したくないが新しく購入するのなら抵抗はない”が 102 名の 26.3 %、“自分の浴衣や帯を加工することに抵抗はない”が 75 名の 19.3 %、“浴衣や半幅帯では抵抗はないが格の高い和服では抵抗がある”が 45 名の 11.6 %、“加工料が安価であれば抵抗はない”が 31 名の 8 % の順であり、“どのようなものかよくわからない”の回答も 14 名あった。以上の

結果、浴衣や帯を加工することにはおおよそ抵抗がない意見が253名の65.2%とかなり多くみられた。呉服業界においても最近ではフォーマルな袋帯にも、華やかな結び帯に加工してまたもとの形に戻せる帯や豪華な西陣織でも前と後帯にわかれた付け帯の袋帯の商品も出されている<sup>7)</sup>。長着の加工にしても、今年5月にはG社による二部式の黒紋付と、前帯の胴と後帯のお太鼓にわかれた黒共帯のセット販売や、6月には呉服卸のO店による「簡単仕立て」による手持ちのきものリフォーム企画であり、長着にはおはしりを作り、帯も結びやすく仕立ててもらい、糸をほどくと元の長着と帯に戻るといった売り込みである<sup>8)</sup>。このように市場においても着装の簡便化で少しでも呉服離れを防ごうと力を入れている。

## (2) 着装のコーディネートに対して

最近の浴衣着装時の化粧やヘアメイク、アクセサリーのコーディネートに対する意識についての質問項目を20あげて、これらに対する意識の評価を1. はい、2. どちらともいえない、3. いいえの3段階で評価させた結果を図2に示す。

項目1～6は化粧に関して、7～11はヘアメイクについて、12～20はアクセサリーに関する項目である。全体に各項目とも“2. どちらともいえない”の値が項目8の最高でも34.1%から項目17の最低6%と出現が少なく、“1. はい”か“3. いいえ”の評価に偏っている傾向であった。また3段階に評価した回答を“はい”を1、“どちらともいえない”を2、“いいえ”を3と数値化した平均値をみると、“どちらともいえない”の2以下の肯定的態度の項目は1の“化粧をする”が平均値1.23、5の“マニキュアをする”が1.55、6の“ペディキュアをする”が1.52、10の“ヘアピンでアレンジする”が1.39とにみられた。また2.01という2に近い値のやや肯定的な項目は9の“花やリボンの髪飾りを付ける”や12の“ピアスをする”であった。若年層の女子大生達には和服であっても化粧はもちろんのこと、手足のマニキュアや流行のヘアピンのアレンジやピアスをしているのは体の一部のような感覚で抵抗がないように思われる。次に、平均値が2以上で3に近い否定的態度の項目は16の“ペンダントをする”が2.93、17の“チョーカーをする”が2.93、4の“タトゥー（プリント入れずみ）をする”が2.89、7の“かつらを付ける”が2.86、13の“イヤリングをする”が2.85、15の“ネックレスをする”が2.83、20の“アンクレットをする”が2.81の順にみられた。やはり和服の場合は、チョーカーやアンクレットそしてピアスは良いが、わざわざ付けるイヤリングやプリント入れずみ等に対しては否定的であった。

次に浴衣を現代風あるいは洋服感覚で着くずしたり変わった素材を用いたり、従来の規範と異なったコーディネートが提案されたり、簡便な和服の構成などが市場にも出回っていることに対する意識についての質問項目を22あげてこれらに対する意識の評価を1. そう思う、2. ややそう思う、3. どちらともいえない、4. あまり思わない、5. 全く思わないの5段階で評価させた結果を図3に示す。

全体に各項目とも“3. どちらともいえない”が最低でも項目1の10.7%であり、項目12の最高は58.3%と出現が多かった。また5段階に評価した回答を“そう思う”を1、“ややそう思う”を2、“どちらともいえない”を3、“あまり思わない”を4、“全く思わない”を5と数値化した平均値をみると、“どちらともいえない”の3をこえた否定的態度の項目は8の“和風柄（絞り、模様等）の洋服をよく着る”が平均値4.10と最も高く、次いで5の“浴衣にマニキュアは似合わないと思う”が3.99、2の“オーガジーの透ける浴衣を着てみたい”が3.34、12の“和服のおはしりはなくてもいいと思う”が3.32、18の“丈の短い浴衣があってもいいと思う”が3.25の順にみられた。また平均値3以下の肯定的態度の項目は1の“浴衣にスニー



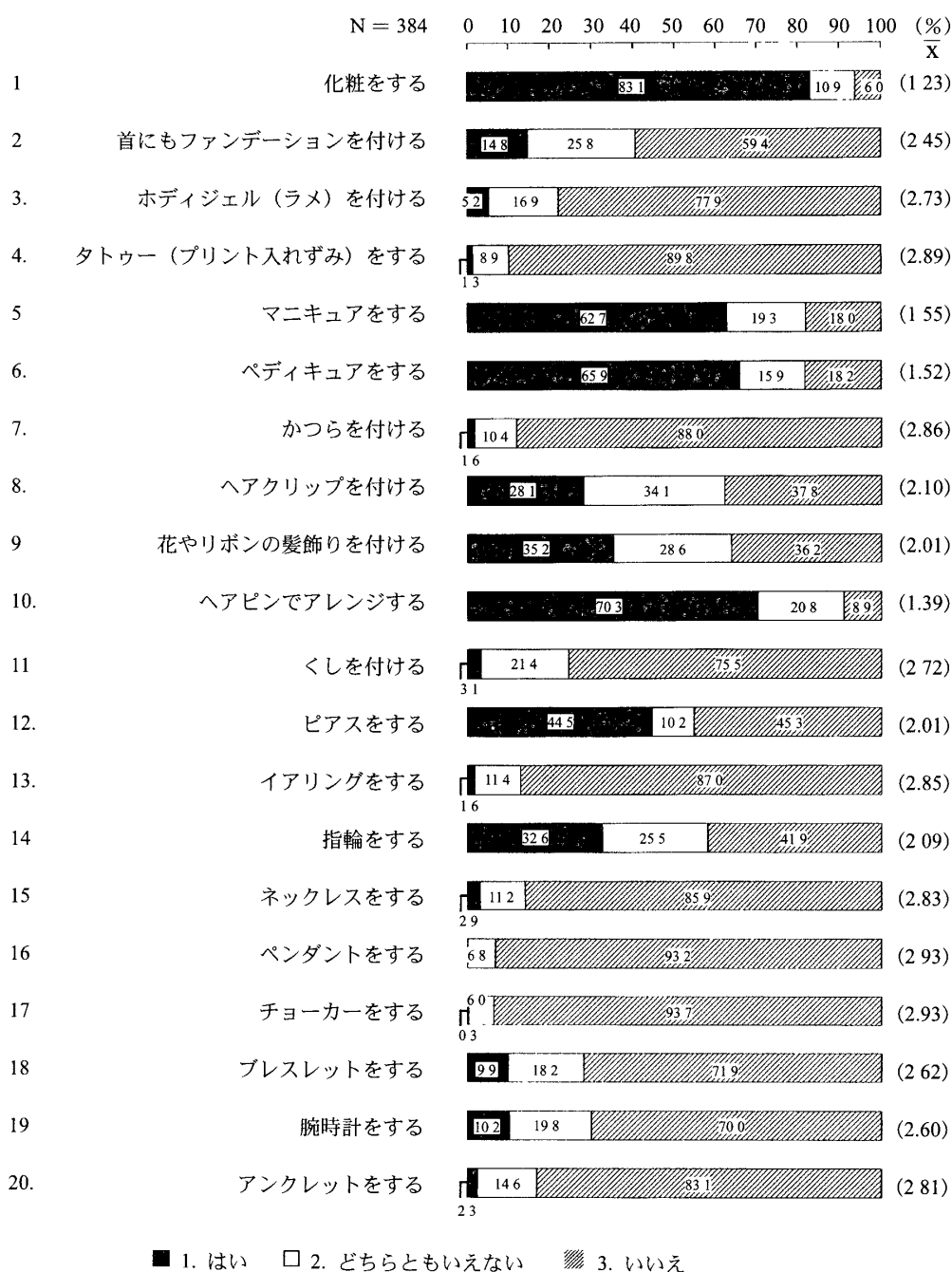


図2 浴衣装着時の化粧やコーディネートに対する意識の評価

カーをはくのはおかしいと思う”は平均値 1.71, 3 の“普段はラフな動きやすいスタイルが多い”が平均値 1.87, 10 の“素足の時はペディキュアをした方がよい”が 1.95, 20 の“付け帯は便利でよいと思う”が 2.19 の順にみられた。

以上の結果, 始めにも述べたように各項目に対して“どちらともいえない”の意見が多く, 浴衣にマニキュアやペディキュアは当然の感覚であるが, ライフスタイルはラフな動きやすいスタイルを好んでおり, 現在大阪や東京にも一部に大流行している“エンジェラー”と呼ばれる和服地によるある洋服のブランド社<sup>9)</sup>の着用者等は極端に少なかった。また付け帯等の和服の簡便さに対する意識はやや強くあるように思われた。

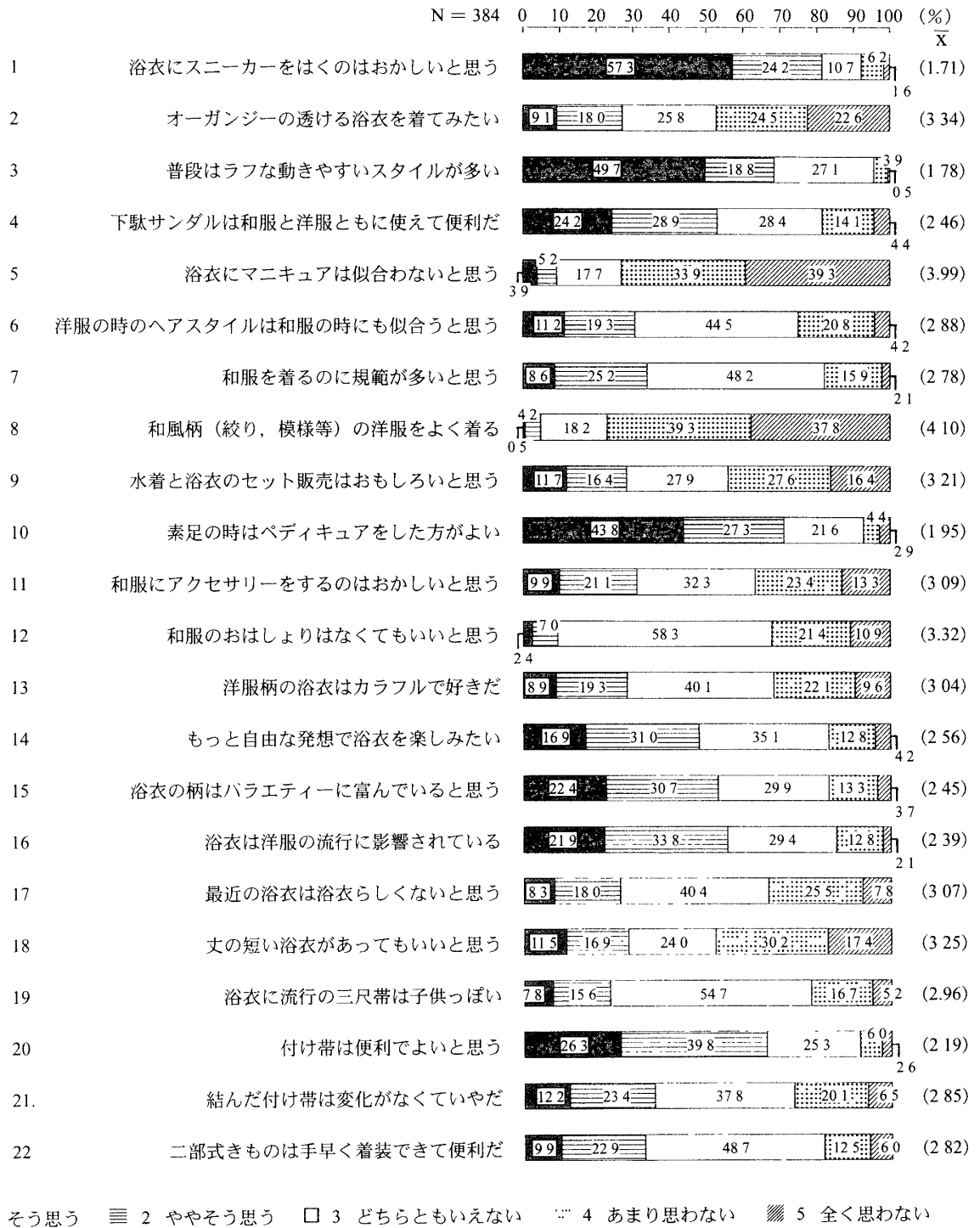


図3 現代感覚の浴衣着装や簡便な和服のコーディネートに対する意識の評価

## 要 約

女子大生の最近の浴衣の着装状況や現代感覚の簡便な浴衣の着装の工夫やコーディネートに対する意識についてのアンケート調査の結果、次のことが考察できた。

1. 浴衣の着装状況における下着の種類では従来の肌襦袢と裾よけ等の和装形式の着装は24%とわずかで、ショーツとブラジャーのみという形式が半数に近い48.3%と最も多く、あまり下着類をつけない傾向がみられた。浴衣の素材は木綿が97.5%と最も多く、透ける素材の化繊は2.5%みられた。帯では自分で結ぶ半幅帯が64%で、簡便な付け帯も29%みられた。帯の素材は化繊が32.3%と最も多かった。履物では下駄が約84%で最も多く、バック類は巾着袋82%、和装用バック8.1%と和装用が多くみられた。

これらの着付は“家族にしてもらった”が70%と最も多く所要時間は“10～20分未満”が多かった。また着付の難点は“帯の結び方”や“おはしよりの整え方”が上位であった。着付の工夫点では帯を斜めに折り返し2色使いにしたりや帯締めをしたり、浴衣にかさねの衿をつけたりしていた。

2. 浴衣の着付さえも家族に手伝ってもらう者が70%もいた中で、着付時間の減少に対して簡便な着付のための帯や浴衣の構成の工夫が必要であるの回答も多くあり、浴衣や帯を切って二部式きもの、付け帯に加工することにおおよそ抵抗がない意見が65.2%とかなり多くみられた。最近では呉服業界でもフォーマルな黒紋付や袋帯にも二部式きものや付け帯を商品化して便利にし、きもの離れを防ぐ対策をとっている。
3. 浴衣着装のコーディネートに対する意識の評価では、和服であっても化粧はもちろんのこと手足のマニキュアやピアスをしたり、流行のヘアピンのアレンジ等は体の一部のような感覚で抵抗はないが、ネックレスやアンクレットそしてわざわざつけるイヤリングやプリント入れずみ等に対しては否定的であった。

さらに“シースルー浴衣”や“丈の短い浴衣”、“おはしよりのない和服”等の流行の目新しいものに対しては否定的な傾向がみられ、付け帯等の和服の簡便さに対する意識はやや強い評価がみられた。

## 参 考 文 献

- 1) 豊田幸子, 山本寿子:和服着装に関する研究(第1報)——浴衣と帯の利用について——, 名古屋女子大学紀要 家政・自然編, 40, 15～22 (1994)
- 2) 豊田幸子, 山本寿子:和服着装に関する研究(第2報)——年末年始における和服の利用について——, 名古屋女子大学紀要 家政・自然編, 41, 55～64 (1995)
- 3) 豊田幸子, 山本寿子:和服着装に関する研究(第3報)——卒業時における和服の利用について——, 名古屋女子大学紀要 家政・自然編, 42, 33～41 (1996)
- 4) 豊田幸子, 山本寿子:和服着装に関する研究(第4報)——女子大生の袴利用について——, 名古屋女子大学紀要 家政・自然編, 43, 45～55 (1997)
- 5) 豊田幸子, 山本寿子:和服着装に関する研究(第5報)——レンタルの利用状況と意識——, 名古屋女子大学紀要 家政・自然編, 44, 45～55 (1998)
- 6) クローズアップ, 9月25日, 日本繊維新聞 (1998)
- 7) 簡単に結べる二部式帯発売, 10月26日, 日本繊維新聞 (1995)
- 8) 和装業界きもの簡単着付けに本腰, 6月10日, 日本繊維新聞 (1998)
- 9) SENKEN, 6月18日, 織研新聞 (1998)

- 10) 被服心理学研究分科会：被服心理学演習ノート，日本繊維機械学会（1994）
- 11) 被服心理学研究分科会：被服心理学，日本繊維機械学会（1988）